

# 個性

北大路魯山人

青空文庫



ある晴れた日の午後であつた。と、こう書き出しても、芥川賞をもらうつもりで、文学的に書き出したのではないから心配しないでくれ給え<sup>たま</sup>。いったいこのごろは、何賞何々賞というものが多過ぎるようだ。常務取締役には社長が多すぎるのも気にかかる。知人に道でも会つて、久しぶりに会つたなつかしさかなんだか知らんが、きまつて名刺を出される。例えばどんな若僧にもらつても、見給え、たいていは社長か常務取締役である。社長だからと思つてあわててはいけない。電話が一本に机一つ椅子一つ、社長一人の社長もあれば、銀行に知人があるというので、金を借りに行くだけの常務取締役だつてある。何々賞もそれと似たようなも

ので、余り多過ぎはしないか。ひとをけなすよりほめる方が美しいことだし楽しいことには違いないが、賞めそこなつたために、そのひとの前途をあやまらず結果にならぬともかぎらぬ。たまたま格のある何々賞があつてそれを受けたと思つたら、棺桶に片足突つこんでいることの証明みたいなことになつてしまつたり……。

さて、なにをいおうと思つていたのかな。そうだ。ある晴れた日の午後であつた……のつづきだ。わたしは、犬をつれて散歩に出た。いや、そうではない。小学校の先生と散歩したのだ。その先生は、遠いところからわたしを訪ねてきてくれたのである。福井県のひとであつた。わたしに、福井の産物をいつも送つてくれるひとだ。福井のガクブツである。

わけても福井のうには日本一だ。方々の国々にうにの産地はあつても、おそらく福井のうには格別である。福井の四箇浦しかうらのうにはとげがない。とげというか、針というか、あのくちやくちやと突き出た奴がないのだ。割ってみると、他のうにのように、やわらかい肉がなくて、からの中にかたまつた、乾いたような、ちようど木の実のような奴がはいっている。落とせば、かんからかんのかんと鳴るだろう。それを取り出して、俎板の上で、念入りに何度もムラのないように練られたものだ。そのうにの産地のひとつ、駅へわたしも行くので、いっしょに出かけたのだ。すると、道ばたで遊んでいた小学生が、その先生を見て、チヨコンと頭をさげたものだ。その先生はわたしを見返つて、笑いながらいう。

「わたしはどこへ行っても、子供におじぎをされますよ。どこへ旅行しても、わたしは子供たちの目からは学校の先生に見えるのですね」

わたしは感心したり、寒心したりした。先生、という型にはまりこんでしまったひとを、わたしは立派だと思ったが、同時に大変さみしく思った。型にはまったらばこそ、型にはまった教育を間違ひなくやれるのだ。だが、型にはまってしまっているがために、型にはまったことしかできないのだ、と、思った。

料理だって同じことだ。型にはまって教えられた料理は、型にはまったことしかできない。わたしは、決して型にはまったものを悪いというのではない。無茶苦茶な心ない料理よりは、まだ型

にはまったものの方が見苦しくない。大学を出ない無知よりは、同じ大学を出た無知の方がましだ。だが、大学に行っても自分でやろうと思つたこと以外はなにも身につかないものだ。本当にやろうと思つて努力するひとにとって、学校は不要だ。学校は、やらされねばならない人間のためにある。自分で努力し研究するひとなら、なにも別に学校へ行かなくともよい。とはいうものの、習つたから、自分でやつたからといって、大きな違いがあるわけでもない。字でいえば、習つた「山」という字と、自分で研究し、努力した「山」という字が別に違うわけではない。やはり、どちらが書いても、山の字に変わりはなく「山」は「山」である。違いは、型にはまった「山」には個性がなく、みずから修めた「山」

という字には個性があるということである。みずから修めた字には力があり、心があり、美しさがあるということだ。型にはまっ  
て習ったものは、仮に正しいかも知れないが、正しいもの、必ず  
しも楽しく美しいとはかぎらない。個性のあるものには、楽しさ  
や尊さや美しさがある。しかも、自分で失敗を何度も重ねてたど  
りつくところは、型にはまっただけで習ったと同じ場所にたどりつくも  
のだ。そのたどりつくところのものはなにか。正しさだ。しかも、  
個性のあるものの中には、型や、見かけや、立法だけでなく、お  
のずからなる、にじみ出た味があり、力があり、美があり、色も  
匂いもある。いや、習いたければ習うもよい。習ったとて、やは  
り力を、美を、味をと教えてくれるだろう。気をつけねばならぬ

ことは、レディーメイドの力や美を教えこまれぬことだ。型から始まるのも悪くはないが、自然に型の中にはいつて満足してしまふことが恐ろしい。型を抜けねばならぬ。型を越えねばならぬ。型を卒業したら、すぐ自分の足で歩き始めねばならぬ。同じ型のものがたくさん出てても日本は幸福にはならぬ。山あり、河あり、谷ありで美しいのだ。しかも、山にも、谷にも、一本の同じ形の木も、同じ寸法の花もない。しかも、その花の一つ一つは、初めはみな同じような種から発芽したのだ。芽を出したが最後、それらのものは、みなそれぞれ自分自身で育つてゆく。

習うな、とわたしがいふことは、型にはまって満足するな、精進を怠るなということだ。

この本を読んだからとて、決して立派になるとはかぎらない。表面だけ読んで、満足してしまつてはなお困る。実行してくれることだ。そして、それぞれに研究し、成長してくれることだ。読みっぱなしで分つたようなつもりになつてくなくては困る。

それでは、個性とはどんなものか。

うりのつるになすびはならぬ——ということだ。

自分自身のよさを知らないで、ひとをうらやましがることとも困る。誰にも、よさはあるということ。しかも、それぞれのよさはそれぞれにみな大切だということだ。

牛肉が上等で、だいこんは安ものだと思つてはいけない。だいこんが、牛肉になりたいと思つてはいけないように、わたしたち

は、料理の上に常に値段の高いものがないのだと思い違いをしないことだ。

すきやきの後では、誰だつて漬けものがほしくなり、茶漬けが食べたくなるものだ。料理にそのひとの個性というものが表われることも大切であると同時に、その材料のそれぞれの個性を楽しく、美しく生かさねばならないとわたしは思う。



# 青空文庫情報

底本：「魯山人の美食手帖」グルメ文庫、角川春樹事務所

2008（平成20）年4月18日第1刷発行

底本の親本：「魯山人著作集」五月書房

1993（平成5）年発行

初出：「独歩」

1953（昭和28）年

入力：門田裕志

校正：noriko saito

2009年12月4日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 個性

北大路魯山人

2020年 7月13日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>